

小さな幸せを積み重ねて

4度目の緊急事態宣言が発出され、北区の新型コロナウイルスガイドラインにも示されているとおり、引き続きご家庭においても都県境を越える外出や旅行・帰省など、夏休み中も不要不急の外出の自粛をお願いせざるを得ない状況になっています。この夏休み、これまで以上に子どもとの生活をどのように過ごすか頭を悩ます方もおられるのではないのでしょうか。休み中にやりたいと思っていたことができないと嘆きたくなる気持ちになりますが、私たち大人が、今できることに小さな幸せを見付け出して積み重ねていくたくましさを示すことが必要です。

しかし、何か特別なことをしようと思うとハードルが高くなります。まずは、いつもしている日常生活に楽しい名前を付けてみてはいかがでしょうか。炊事、洗濯、掃除、買い物などでよいのです。日頃お母さんが頑張っていることは、子どもにとって、まねをしたくなります。例えば、「コックさんの日」「買物探検隊」「洗濯畳みチャレンジ」「(洗濯)干し干しタイム」「拭き拭きマシーン」「お助けレンジャー」など、実は「お手伝い」なのですが、カレンダーに予定を書いてみると親子でわくわくすることでしょう。

また、時には、「おやつ大作戦」として、〇円までと決めて自分で選んで買い物をする日をつくったり、手作りおやつに挑戦したり、時には「アイス研究所」として、缶詰のフルーツを凍らせてみるのも楽しそうです。幼い頃（親も子も）の写真を親子で一緒に見たり、今のお気に入りのことを写真に撮ってポートフォリオのようにコメントを付けたりするのも、幼い頃からの成長を喜ぶひとときとなります。工夫して楽しむ経験は、きっとこの先の子どもの人生の中でも役に立つはずです。子どもと共に創る毎日は、幸せな日々ですね。

さて、我が息子たちの幼い頃のビデオを新機種に対応できるようにダビングする作業は、ようやく長男の6歳まで終了しました。（あと、20年以上・・・先は長い！）ダビングの最中、親馬鹿ぶりを発揮して見入ってしまうのですが、これまでのささやかな日常が、なんて幸せだったのだろうと振り返る夏休みもいいかなと思っています。素敵な毎日になることを願っています。

もうすぐ！オリンピック・パラリンピック

先日、もり組の子ども同士で考えながら力を合わせて、はしごや鉄棒などの大型遊具の巧技台を組み立て、運動できる場を作りました。鉄棒にぶら下がったり、はしごを渡ったりした後、高い台から着地を決めようとする姿も見られました。この活動の前に、これまでのオリンピックのダイジェスト版を視聴していたことも影響していたようでした。子どもたちは、何度か繰り返し視聴した際、金メダルを獲得した選手が泣いている姿を見て、「勝って嬉しいのに、なんで泣いているのだろう？」「これまでたくさん練習したから、嬉しくても涙が出るんだね。」と、アスリートの気持ちを思い浮かべながら心を動かしていました。

ふくろ幼稚園では、子どもたちが体を動かす楽しさを感じ、自分で決めた目当てに向かって意欲的に取り組む心を育てることを「オリンピック・パラリンピック教育」の一つとして位置付け、預かり保育「ゆうゆうクラブ」では、講師の先生を招き、運動遊びの意欲を高められるような機会をつくってきました。

子どもたちは、小さな「できた！」を繰り返すうちに、体を動かす楽しさを感じているのだと思います。きっと、オリンピックやパラリンピックに出場する選手たちも、幼い頃は、この気持ちからスタートしたことでしょう。それを諦めずに、根気よく、努力を惜しまずに続けてきたアスリートたちは、本当に偉大であると尊敬します。

いよいよこの夏、オリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピック・パラリンピック教育の集大成として、アスリートの活躍が心に残る感動体験となりますように、ご家庭でも話題にあげながら、一緒に応援しましょう。